

## 北海道支部

紅葉が美しく色づく秋晴れの  
中10月26日「札幌市民交流プラザ」にて北海道支部の秋の行事「和菓子製作体験」を開催しま



した。50年続く小樽にある「和菓子処 つくし牧田」2代目牧田浩司さんを講師にお迎えし、初級の「菊」、中級の「紫陽花」、上級の「桜」の3種類を作成しました。ヘラを使って形づくっていきますが、ヘラに力を入れる加減により線の入り、太さ、長さが変わります。講師のようにバランスよくツヤツヤした美しい形には及びませんでした。各自思い思いに作ったお菓子里に感嘆の声をあげながら、和気あいあいと楽しく体験することができました。自分で作った和菓子に愛着が湧き、食べるのがもったいない位でしたが、自宅で美味しくいただきました。

また、雪がちらつく11月30日「札幌市民交流プラザ」にて学びの会「はじめの手話」を開催しました。北海道支部副支部長であり、手話通訳士の資格をお持ちの山田陽子さん(45J)が講師となり、まず手話での挨拶から教えていただきました。指の動き、目の動き、顔の表情、空間を使って表現することでしたが、表情豊かに、相

手をみてという余裕はなく、自分の手の動きを覚え手元をみて表現するのが精一杯でした。一人一人の動きを細かく丁寧に見てくださり、最後は自己紹介ができるようになりました。「初めまして、私の名前は〇〇です」と皆の前で披露しましたが、この短い挨拶でもこの日覚えての5表現を用いるので、

学んだ達成感や嬉しさがありました。山田さんの手話通訳時の経験談も聴かせていただきながら、普段なかなか触れる機会のない手話を学ぶことは、



非常に貴重な体験となりました。

コロナ禍からようやく抜け出して行事が開催されるようになり、皆さまと再会し、お話しできる時間はとても有意義でした。初めて参加した方もありとても嬉しい出会いとなりました。

6月には支部総会が開催されます。同じ学び舎で学んだ先輩、後輩とともに青短時代の懐かしい話に花を咲かせ、共感し合える時間は何より楽しいひとときです。皆さまの参加を心よりお待ちしております。

平1C 阿部 育子(吉本)

## 東北支部

宮城県支部は春に総会を開催するた  
めいち早く住所ラベルを申請しました。  
6月に福島県で行われた支部総会で、  
秋田県支部は、2025年支部総会に  
向けてすでに準備を開始していました。  
福島県支部は、2024年支部総会  
を無事終えた慰労と記念写真発送準備  
のため、7月8・9日に、「ホテルハー  
ベスト那須」へ出かけました。

岩手県支部は秋に盛岡競馬場「オーロパーク」において秋晴れの下競馬場内を見学したあと、予約しておいたパーティールームで総会と、各自屋台で買った焼き鳥等で会食。会員の千葉泰子さん(53L)のご主人(競馬歴50年)にご指南いただき



馬券を購入。熱い1日を過ごしました。

山形県支部は、11月9日に中国料理「レストランタカハシ」で、12名の出席で県部会総会を開催しました。こちらもなかなか予約が取れない人気のレストランとのこと、みなさんで楽しく舌鼓を打ちました。

各県それぞれが、しっかりとした運営と親交を深めている様子です。

56E 中村いずみ(佐藤)

10月6日に青森県部会総会を開催しました。三好千佳さん(平4E)が南部裂織の青森県伝統工芸士としてNHKに出演し、裂き織りの指導をするなど活躍されており、私たちもぜひ体験してみたいと三好さんをお願いしました。



当日はよいお天気に恵まれ、大きな窓から美しい海が一面に見渡せるアトリエで、裂き織り体験を行いました。様々な素材の古布などを裂いてひも状にした織り糸や、織機などをすべて用意していただき、たくさんの方の中から各自が好きなものを選んで、三好さんのご指導の下私たちは小さな丸いコースターを織り始めました。初めはなかなか難しくかつたものの慣れてくると皆夢中になり、口数も減りシーンとして気が付くと思わず笑ってしまいました。2時間余りで作品は無事でき上がりました。

その後、近くのレストランに移動してランチをいただきながら、来年の活動予定を話し合い、また裂き織りのでき具合や短大時代の思い出話など、話題は尽きませんでした。



52J 出戸端友子(相馬)